

トビウオ通信 (R5 第4号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和5年度上半期浮魚中長期漁況予報》

2022年度第2回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報（令和5年3月28日発表 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所（以下、水産資源研究所）より、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の令和5年度上半期（4月～9月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和5年度上半期(4～9月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年並みか前年を上回る ウルメイワシ:前年並みか前年を下回る

カタクチイワシ:前年を下回る

※本文中で「上半期」は4月～9月、「下半期」は10月～翌年3月（令和5年3月は速報値）、「平年」は過去5年（平成30年～令和4年）の平均値、「前年」は令和4年度上半期を示します。

マアジは前年並み

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和4年11月～令和5年1月の漁獲状況は、前年・平年を上回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成18年度から平成30年度にかけて、約2万～4万トンで推移していましたが、直近4年は約1万トンで推移していません（図1）。令和4年度下半期は5,010トン、前年同期（2,170トン）の231%、平年同期（4,614トン）の109%でした。

今後の予報

水産資源研究所によると、令和5年度上半期の日本海の漁況は前年を下回り、平年並みと予測されています。山陰における令和5年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる1歳魚（大きさ15～20

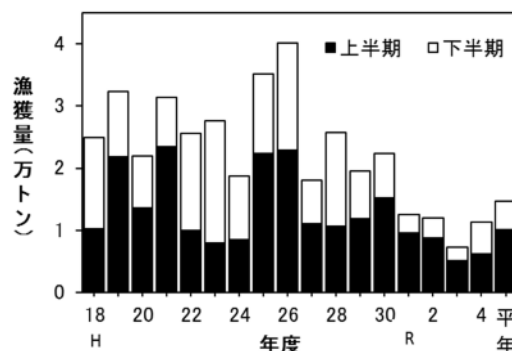


図1. 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量の推移（平年はH30～R4の平均値）

cm：令和4年生まれ）と2歳魚（大きさ20～25cm：令和3年生まれ）の山陰沖への来遊状況と夏季以降に漁獲対象となる0歳魚（大きさ5～15cm：令和5年生まれ）の加入状況によって決まります。1歳魚の資源水準は、山陰沖での直近の漁獲状況とマアジ新規加入量調査^{※1}の結果（図2）から、前年並みか前年を上回ると予測されます。また、2歳魚の資源水準は前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、東シナ海におけるマアジの稚魚の分布量と高い相関が見られる4月半ばの好適水温帯面積は、令和5年は前年並みと見込まれることから、0歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。以上のことおよび直近の漁獲動向が低位であることを考慮すると、令和5年度上半期の漁況は、前年並みと予測します。

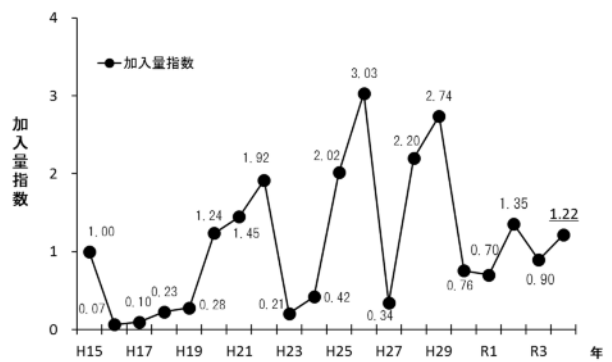


図2. マアジ新規加入量調査による加入量指数^{※2}

※1 マアジ新規加入量調査：マアジ0歳魚の加入量を早期に把握するための調査

※2 加入量指数：マアジの新規加入量調査においてその年の0歳魚の加入量を数値化したもの。なお、平成15年を1としている。

マサバは前年並みか前年を下回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和4年11月～令和5年1月の漁獲状況は、前年・平年を上回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況も、前年・平年を上回りました。

島根県の中型まき網によるサバ類（島根県で漁獲されるサバ類はほとんどがマサバ）の漁獲量は、盛漁期にあたる下半期の推移をみると、平成18年度以降では約3千～2万トンの中で増減を繰り返しています（図3）。令和4年度は、5月に5千トンの漁獲があり、特異的な好漁となりました。結果として、上半期の漁獲量は下半期より多く、1万トンの漁獲がありました。令和4年度下半期の漁獲量は2,921トンで、前年同期（3,157トン）の93%、平年同期（7,118トン）の41%でした。

今後の予報

水産資源研究所によると、令和5年度上半期の日本海の漁況は、好調だった前年を下回り、前年並みと予測されています。山陰における令和5年度上半期の漁況は、1歳魚（大きさ25～30cm：令和4年生まれ）と2歳魚（大きさ32cm以上：令和3年生まれ）が漁獲の主体とな

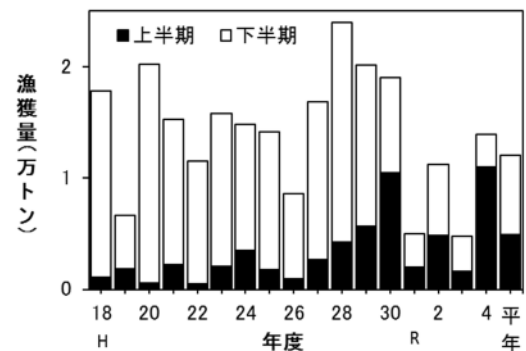


図3. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移（平年はH30～R4の平均値）

り、夏季以降は2歳魚（大きさ 15～20cm：令和4年生まれ）も漁獲されます。1歳魚の資源水準は前年並みとされ、2歳魚の資源水準は前年を上回ると予測されています。また、島根県は令和4年度上半期が特異的な好漁であったこともあり、令和5年度上半期の漁況は、日本海域や直近の漁況から好調だった前年並みか前年を下回ると予測します。

マイワシは前年並みか前年を上回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和4年11月～令和5年1月の漁獲状況は、前年を上回り、平年を下回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年・平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成18年度～平成22年度は低調に推移しましたが、平成23年度から増加し（図4）、平成26年度を除いて約1万～4万トンで推移しています。令和4年度下半期の漁獲量は16,053トンで、平成17年度以降2番目に多く、前年同期（18,768トン）の86%、平年同期（9,989トン）の161%でした。

今後の予報

水産資源研究所によると、令和5年度上半期の日本海の漁況は、前年・平年を上回ると予測されています。山陰における令和5年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる1～2歳魚（大きさ15～20cm：令和3年～令和4年生まれ）と夏季以降の0歳魚（大きさ15cm以下：令和5年生まれ）の来遊量で決まります。1～2歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。また0歳魚の予測は困難ですが、令和4年1月から6月の産卵調査で日本海西部において前年を超える卵が確認され、親魚量は前年並みと考えられることから、来遊量は前年並みか前年を上回る可能性があります。令和5年度上半期の漁況は、資源水準が増加傾向であることから前年並みか前年を上回ると予測されます。

ウルメイワシは前年並みか前年を下回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和4年11月～令和5年1月の漁獲状況は、前年・平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成25年度までは下半期の漁

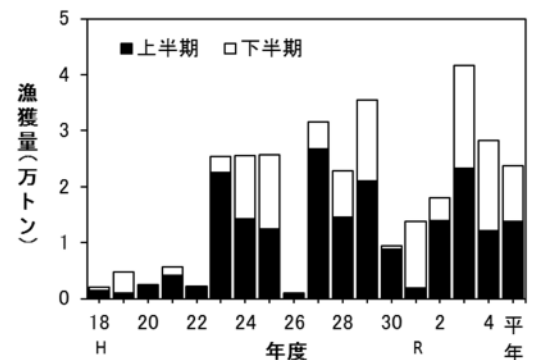


図4. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移 (平年はH30～R4の平均値)

獲量が多い傾向にありましたが、近年は上半期の漁獲量が多い傾向にあり、特に令和4年度漁獲量の大部分は上半期が占め、平成18年度以降最大の漁獲量となりました(図5)。一方、令和4年度下半期の漁獲量は158トンで、前年同期(1,035トン)の15%、平年同期(1,783トン)の9%でした。

今後の予報

山陰における令和5年度上半期の漁況は、1～2歳魚(大きさ18cm以上:令和3年～令和4年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5～15cm:令和5年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は、産卵量結果等から前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、直近の漁況より前年並みと考えられています。以上より、令和5年度上半期の来遊量は前年並みであると予測されていますが、島根県の漁況は、前年並みか前年を下回ると予測されます。

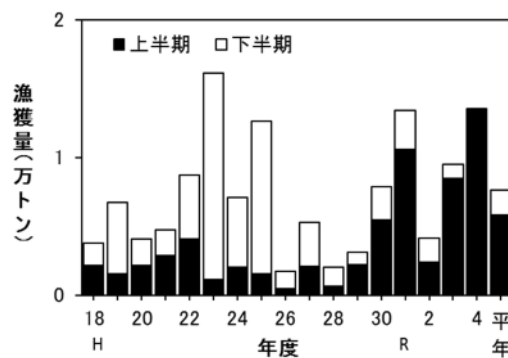


図5. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移(平年はH30～R4の平均値)

カタクチイワシは前年を下回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和4年11月～令和5年1月の漁獲状況は、前年並みで、平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成25年度以降減少しています(図6)。特に、令和4年度は上半期に漁獲があったものの(332トン)、下半期は全く漁獲されず、平成30年に次いで不漁となりました。

今後の予報

山陰における令和5年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる1～2歳魚(大きさ12～14cm以上:令和3年～令和4年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5～10cm:令和4年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は、鹿児島県の直近のシラス漁況が前年を下回ったことから、前年を下回ると予測されています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、前年並みと仮定すると、全体の来遊量は前年を下回ると考えられています。また、山口県～鹿児島県の上半期漁況予報は概ね前年・平年を下回るで一致しています。以上のことから、令和5年度上半期の島根県の漁況は前年を下回ると予測されます。

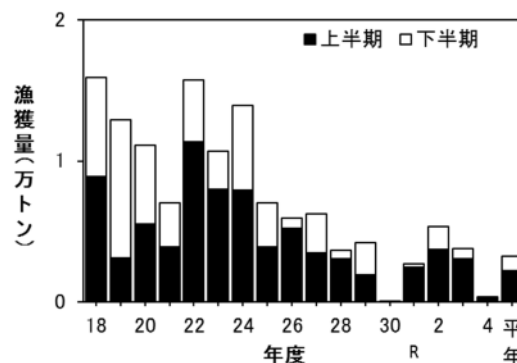


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移(平年はH30～R4の平均値)